
rainy day

高橋 美羽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

rainy day

【コード】

N9506C

【作者名】

高橋 美羽

【あらすじ】

雨の日にはいつも思い出してしまう…そんなお話です

『莉緒は…雨って好き?』

家まで送ってもらう、信号待ちの車の中で、悟は私に聞いてきた。外は、雨。かなり強く降っているようだ。

『…雨は嫌だな。濡れるし、憂鬱だし』

私は答えた。

しばらくして、信号が青に変わり、車は走り出す。

『俺、雨って好きだよ。なんかさ、自分の中にあるイヤな気持ちを全部、洗い流してくれそうな感じがするでしょ』

(へえ…悟って、以外にも詩人なんだ。)

悟とは高校の同窓会での再会をきっかけに、付き合い始めた。

『高校の時、君の事が好きだったんだ』

…よくあるパターンだ。

当時、クラスメイトだった悟とは、ほとんど話した事がない。

彼は比較的おとなしいと呼ばれるグループにいたので、私や私の友達のような騒がしいグループと交わる事は、なかった。

それから、卒業して2年振りの再会…悟は素敵な男性になっていた。私は、大学の先輩との男女関係で《2番目》という、都合のいい女でいる事に疲れ果てていた。

誰でも良かった。この状況から、私を救ってもらえるならば…

だから、悟から差し出された手を、こうして掴んだのかも知れない。

…もう、2番目は嫌だ…

家の前で車が止まった。いつもなら、悟と短いキスをして笑顔で別れるが、今日は、悟からのキスがなない。

『悟、どうしたの？まだ一緒にいたい？』

悟は黙ったまま、俯いている。

『どうしたの？具合でも悪いの？』

しばらく黙っていた悟が、意を決したように話始めた。

『……実は、付き合ってる彼女に…莉緒の事がバレて……別れてこい……って言われたんだ。』

一瞬、耳を疑ったが、悟の顔を見れば、本気で言っていることが分かる。

すでに本命がいた悟にとって、私の存在は《2番目》でしかなかった。

（あなたにとって、私は2番目でも、私にとって、あなたが全てだったのよ…）

悲しすぎて、涙なんか出てこない。

外は、泣けない私と反比例するかのようになり、雨足が強くなっている。

悟の中で引つ掛かっていた、本命への罪悪感も、この雨できれいに洗い流す事ができたのだろうか？

こんな時、2番目は、すがってはいけない。

『今まで、ありがとう』

そう呟くと、私はゆっくりと車を降りた。

振り返らずに、前だけを見て……。

今でも雨は嫌いだ。
濡れるし…憂鬱だし。

車を降りた後で、流した涙を思い出すから……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9506c/>

rainy day

2010年10月12日04時50分発行